

若者と支援者をつなぐ広報誌

# YOUTH SERVICE

若者を考える、若者と考える

## vol.26

YOUTH SERVICE vol.26

2017年1月23日発行



特集

# 若者 X 多文化共生

TOPICS ひきこもる若者 みまもる家族

# Catch Your Dream 夢をかなえる学校がある!

— 普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

## 選べる4つの登校スタイル

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
  - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
  - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
  - 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。



## 選べる18の専門コース

- 進学
  - 調理・製菓
  - 声優
  - IT
  - 理容師・美容師（国家資格取得）
  - 動物
  - スポーツ
  - 外国語
  - 心理・教育
  - ダンス
  - 美容
  - ミュージック
  - 芸術
  - 芸能
  - フアッション
  - 保育
- NEW エンジニアコース 平成29年開講予定  
NEW コミック・アニメーション
- ※希望者のみ選択できます。 ※専門コースは毎年変更できます。  
※卒業単位に20単位まで認定できます。



NEW

平成29年4月第二新校舎完成予定

### 不登校相談支援センター なごみ教室

学校生活や人間関係等で不安感や緊張感が高まり不登校に悩む保護者や生徒を対象に、いきいきとした生活を送ることができるように、総勢9名のカウンセラーが支援します。

### 盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部/料理部/写真部/ASG部/演劇部/茶道部/吹奏楽部/軽音部/声劇部/手芸部/健康増進部/Duel Masters部/天文部/テニス部/卓球部/バスケットボール部/フットサル部/総合運動部/その他生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会(後援会)が連携して、在校生の活動を支援しています。

平成27年4月京都府認可

通信制・単位制・普通科

## 京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば 検索

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番  
TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021  
◆JR・近鉄・地下鉄丸亀線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

私たちは青少年育成を応援しています!



縁を絆に

ふるさとの良さを活かした  
まちづくりを進める会事務局長  
浅井 定雄 (筆名：鏡山次郎)



人には誰にでも「生きる」という本能的な力がある。人はひとりぼっちじゃ生きられないけれども、居場所があれば、人は生きられる。人とつながってれば生きられる。自分を発揮できる場所があれば、元気になれる。「生きる」という本能が、居場所と、自分を発揮できる場所や仲間を求めている。世の中のすべての人は、そうして生きている。みんな同じだから、あなたを理解してくれる人は必ずいる。

「縁を絆に」という言葉がある。人との出会いを大切にして、家族や友達とのつながりを大切に育ててほしい。人間を愛してほしい。そして、何でもいい、目の前のことから目を背けず、ごまかさず、全力になって取り組んでほしい。

それでも、寂しくて、つらくてたまらない時、この言葉を思い出してほしい、「この世にあなたを愛してくれている人が必ずいる」ということを。

大人たちは、今まで創り上げてきたすべてのものを、若い人に託して、何も持たずに舞台から去って行く。そして、あなたたち若い人が手に入れるものは、この世のすべてだ。大人たちは去って行く、「未来」をあなたたちに託しながら……。

※山科青少年活動センターの、若者が地域の歴史を知る、地域活動との接点を持つことを目的とした事業の企画運営に協力していただいています。

イラスト：おおつか なな

14

12

10

8

3

特集

若者×多文化共生

〈今、多文化が共生するということ〉

高校生が作ったページ

高校生が京都について考える

オープンな場での関わりの可能性

水野篤夫

TOPICS

ひきこもる若者 みまもる家族

ユースかわら版

「やませい」あえる「フェスタ

『フリースタイルダンスバトル2 on 2』

ほか

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。  
家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

プラス思考に変える独自の教育「EMS」で  
自分を好きになる、  
未来が変わる!

中3、転・編入のご相談を  
随時受け付けております。  
お気軽にお電話ください。



自分に合ったスクールライフ

通学型

- 毎日通って高校生活を満喫
- 週1~3日マイペースに登校

通信型

- Mobile HighSchool -
- 時間や場所を選ばず学ぶ

ICT教育の推進

iPad®miniを生徒全員に配布

学習意欲の向上

学力の定着

iPadは米Apple Inc.の登録商標です。

仲間ができる!笑顔が増える!



心強い仲間たち  
(ピアサポーター)



様々なサークル  
イベント

自分に合った学習

- 中学校の復習から大学受験対策まで
- 進路対策も万全(進学・就職)
- 「セルフケア講座」で社会に出て役立つストレス対策

生徒第一...だから

第一学院高等学校

通信制高校(広域通信・単位制)

京都市営地下鉄「五条」駅①番出口徒歩2分(京都駅より1駅)

〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 烏丸KT第2ビル5F

京都キャンパス

TEL 075-371-3007

全国52キャンパス  
(平成28年7月時点)

www.daiichigakuin.ed.jp

第一学院高校

検索



高卒認定合格を目指すコース(通学・通信)もあります。



外国にルーツをもつ子どもの支援をする学生グループ「帰国渡日児童生徒つながる会」のメンバーと



若者×多文化共生

# 今、多文化が共生する ということ

伏見青少年活動センター

## 「多文化共生」のその先を目指して

「多文化共生」ということばが使われるようになったのは、在住外国人が増え急増した90年代です。それからずいぶん長い時間が経ちました。2006年、総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書」の中では、多文化共生は「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。

いまこの原稿を作成している2016年は、それから10年目に当

りますが、外国人受け入れの新たな曲がり角となる年でもありました。外国人労働者は100万人を超えました（推計）。また、人手の不足する介護現場での外国人の受け入れについては、これまではEPA（経済協力協定）の下であるいは新日系人と呼ばれるフィリピンにルーツを持つ人を中心に行われてきました。今回あらたに在留資格にも技能実習の職種にも「介護」が加えられ、さらなる外国人材の受け入れが期待されています。

外国人受け入れ促進の地ならしも進んでいます。いわゆる「ヘイトスピーチ対策法」が成立し、外国人に対する差別的言動に対して初めての法的な規制が課されました。また、外国人に対する日本語教育を充実させることを目指して、超党派の国会議員が「日本語教育推進議員連盟」を発足させました。

振り返ってみると、1980年代

に留学生やエンターテイナー、90年代に日系人の受け入れが増えたとき、日本社会はそういった人たちが一人一人、ライフ（生命・人生・生活）をもつ存在であることを十分には認識していなかったと言えます。実際には、受け入れた人々は日本で仕事に就き、家族を呼び寄せたり、家族を作ったりして、いまや「生活者」として経済的にも社会的にも日本を支える重要な一員となっています。この我々の認識と実際のずれによって、多くの問題が生じています。

新たな曲がり角に立つ今、我々は足元のこの京都の多文化共生がどのような状況にあるのかを見直す必要があります。そして、曲がり角の先を見据え、これから目指す社会づくりにおいて「多文化が共生する」というスローガンだけで十分なのかをあらためて議論することが迫られているのではないかと思います。



京都教育大学 国文学科 浜田 麻里 教授

キーパーソン

1

公益財団法人 京都市国際交流協会  
事業課 情報サービス係 担当係長

濱屋 伸子氏



京都市には留学生が多く、学部生以外にも若手研究者が家族を伴って来日し、京都で出産や子育てを経験されているケースも少なくありません。医療通訳派遣事業や行政通訳相談事業といった、通訳者による言葉のサポートを行う事業から、そうした人たちの課題や問題も多岐にわたることが見えてきました。日本語によるコミュニケーションが十分でない人にとっては、通訳による言葉のサポートはとても重要です。

●支援を深め、  
広げるためのネットワーク

ただ、私たちが提供している言葉のサポートは、必要なところへ「つながり」ことがメインで、直接的な支援は難しい。だからこそ、私たちが自身がさまざまな団体や人たちと広くつながっていることが大事だと思い、京都市域の外国人のサポートに関わる団体・個人が参加する「きょうと多文化支援ネットワーク」などにも関わっています。

通訳によってサポートできるのはごく一部。通訳者がいれば全ての問題が解決できるということにはならないです。いろいろな人が自分の状況や希望にあわせて日本語を勉強できる場はもっとたくさんあっていいのかなと思っています。たとえば、子育て中の方だったら、子ども連れで勉強ができたり、他の親子との交流なんかもある日本語学習の場へのニーズは高いと思います。そこ

●世界と出会い、広がる自分

Kokuka（国際交流会館）で開催している、乳幼児と保護者の居場所づくりの活動「ホッとチャット」は、子育ての情報交換や、友達を作りたという外国人保護者のニーズに応えようと立ち上げられました。ところが実際には、外国人の保護者と交流し、多様な文化や習慣を実際に見たり聞いたりすることで、日本人の保護者が子育てをもっと自由にとらえられる視点をもてたりするのかなと思ったりがありました。世界と出会い、いろんな人がいることを知ると、「こうあらねば」というところから、自分自身ももっと自由にな



れて生きやすくなるのではないかと  
思っています。

若者が外国の人と出会い、交流する  
のも、そういうことを得られる1  
つのチャンネルなのかもしれません。



キーパーソン

2

京都府国際センター  
外国人留学生等支援員（コーディネーター）

谷川 拓巳氏

●留学生就労支援を通して  
見えてきた共感への取り組み

2006年外国人留学生就職のアドバイザーとして京都に来ました。留学生が何故日本を選んだのか、日本を何をしたのか、生活のことも含めたアドバイザーでありたいと思っています。

みんな一人に来て、必死で生活しています。「家（日本での住居）が一番いい。ホッとします」という声



も聞きます。みんな強いわけでもなく、不安な中で生活しているのを実感します。

就職面では、留学生の持つ個性や希望と就職できる枠組みにずれがあることを強く感じています。「出入国管理及び難民認定法」（以下入管法）のため、働く枠組みが限定されているのです。もう少し就職の枠を広げてほしいと考えています。期限的な縛りもあり、就職できないと1年（卒業後6ヵ月×2回申請の特定ビザ変更・ある大学は「卒業後の特定ビザの大学推薦状を発行しない」卒業後即帰国）で母国へ帰らなければいけません。私自身何度も枠組みの壁にぶつかり、悔しい思いをしました。日本で漫画を描きたいといった想いに、「入管法」は応えてくれませんが（専門性）。より良い就職先とのマッチングを思えば、卒業後せめて1年、有給もしくは手当のつくインターンシップ（現在日本は非労働）のキャリア就業体験と企業研修プログラムの参加を提案したいと考えています。

「ここには、「仕事を辞めたいんです」「辞めたんです」という元留学生が多くやってきます。「4月に就職したの  
では？」半年足らずで辞めてくるこ



ともあり、企業がグローバル化しないと働き続ける職場として無理があります。疲れ果てて母国へ帰ってしまいう元留学生も見えました。課題は外国人留学生が日本での経験を活かしたキャリアプランを明確にもっていないこと、日本企業が外国人を採用後どのように活用していくか具体化されていないことだと解ってきました。これらは、国の高度人材の日本定着という政策と相反する流れになっている大きな問題であり、早急に対策を講じる必要性があります。



●相談に来ていた、元留学生  
Rさんに話を伺うことができました。

最初は、泣いて相談に来たそうです。京都の大学を卒業し、貿易会社に就職。3年目の今夏、仕事を辞め、幸運なことに、3か月で再就職できたという報告にきました。

「辞める前に再就職先を決めてから辞めることをお勧めします」と谷川さんからアドバイスを受けていましたが、結局辞めてから再就職先を探すことになりました。

貿易会社なので、国際的な仕事ではありましたが、事務職で思うような活躍ができませんでした。朝8時から夜10時まで。仕事をしながらほかの仕事を探すのは時間的、体力的に無理だったといえます。

「会社と家との往復だけ、休みの日は身体を休める事に使い、プライベートな時間は取れなかった。いろんな人となりが持てない。結婚のことも非常に気になる。自分の時間を持つことが全くなかったです。辛かった」と打ち明けてくれました。

（村井）

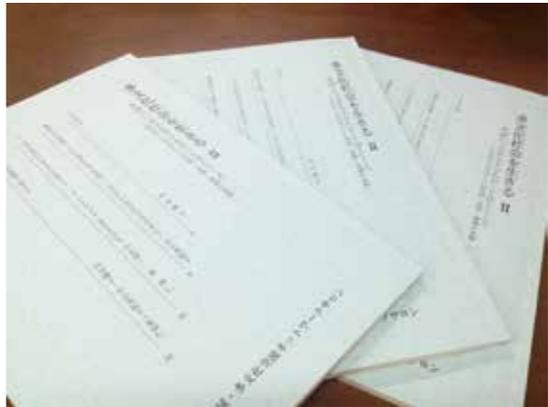
京都市地域・多文化交流ネットワークサロンは京都市南区東九条にあります。地域のまつり「東九条マダン」は今年で24回を迎えました。東九条マダンでは、朝鮮半島の楽器を、韓国・朝鮮人も、日本人も、今ではフィリピン人も一緒に演奏しています。ネットワークセンターの中には児童館、向かいには保育園があるので、在日の友達を本名で呼んだり、友達の親を〇〇のオンマ（お母さん）、〇〇のアッパ（お父さん）と呼ぶことが、日常の中にあります。東九条マダンや、ネットワークサロンなど、多様な背景をもつ人々が集まる環境で子育てできることを、私自身も幸せに感じています。



(写真 東九条マダン実行委員会提供)

●愛だけでは届かないこともある

『多文化社会を生きるⅡ』を発売したことを紹介したいと思います。日本で生まれ育ち、日本語は全く問題ないと思われるフィリピンルーツの子どもたちが、生きづらさを感じている場面に会うことがあります。その子どもたちは、日本語が得意ではない自分のお母さんと、深く話し合うことができなかったり、自分のこころの中で感じていることを表現することが苦手だったりします。中学校、もしくは高校を卒業した途端、社会についていけず、仕事が続かない、悪い仲間にもまれる、ということもあります。この冊子は、ネットワークサロン講座「外国につながる子ども」の



とこころ／生きぬく力をはぐくむ学校・家庭・地域の役割」の講演録で、考える力や心を見わたす心を育てることの大切さを伝えていきます。まずは親の気持ちが一番伝わることは（母語）で育てることを薦めています。そのことばが、子どもの考える力や、心を見わたす心を育てるということ、またそれは、青年になってからでも育てることができると書いてあります。保育、教育、または子どもたちの支援に関わっておられる方々に、ぜひ読んでいただきたいと思えます。

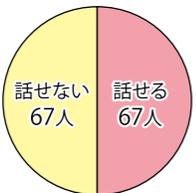


●共に生きる

日本社会で人権が守られていない事例があまりにも多くて、多文化共生は、とてつもなく遠く感じることはです。今は、東九条地域で人のつながりを大事にしながらがんばっています。互いに支え、支えられ、共に生きる街に近づいてきたように思います。

ふしみん（伏見青少年活動センター）を利用している中高生・大学生・社会人 134名にインタビューしました！

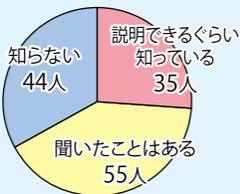
外国語を話せますか？



友だちに外国にルーツをもつ人はいますか？



ヘイトスピーチとは何か知っていますか？



留学をしたことはありますか？



意外にも、外国にルーツをもつ友達がいる若者が多いという結果に。サークルの仲間やクラスメイトに「外国のことを知ることが大事、でも我が国日本のことをどれくらい知っているのか？」ということ、ニュースで一時期多く取り上げられ

ていたヘイトスピーチについても聞いてみました。あなたはこの結果をどう捉えますか？ アンケートにご協力いただいた青少年の皆様、本当にありがとうございました。

(井上)

若者×多文化共生 今、多文化が共生するということ

多様性こそ力 共生こそ希望

多文化・多様性を尊重するとお互いの「ちがいが」がぶつかりあう場面がおこります。ぶつからないように距離をとることは、「ちがいを認めあう」のではなく、おたがいを「避け、関わり合おうとしない」ことであり、共に社会を生きるあり方とはいえないでしょう。必要なことは、「ちがいを認めつつ積極的に関わり合おうとする」ことであり、「ちがいを」どう向き合うかが重要になります。

伏見区は、外国にルーツを持つ住民が比較的多いこともあり、伏見青少年活動センターは、事業の柱の一つとして多文化共生の啓発を掲げています。「伏見にほんご教室」、「国際交流カフェ」、「多文化共生きほんのき」などのプログラムを実施するとともに、「京都市多文化施策審議会」

「ときめき」・「京都にほんごRings」などの機関やネットワークに参加しています。若者が多文化共生プログラムの活動を通して考えたり行動したりすることで、他者を慮ることのできる感性を身につけた大人へと成長していることを実感しています。これからもそういった感性を持てる若者が多く活躍できるような伏見青少年活動センターを目指します。

今回は、「多文化が共生できる社会づくり」を推進してきた3人のキーパソンにインタビューをさせていただき多文化共生社会の一つの価値としてある他者を慮ることへの発見や気づきがあれば幸いです。

(村井)

高校生が作ったページ

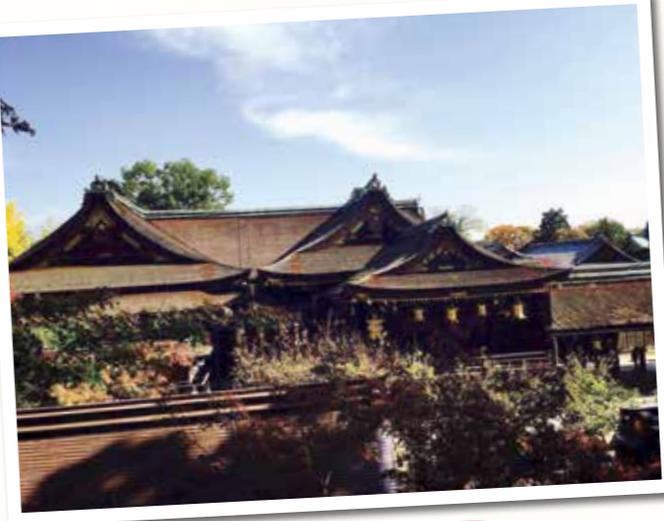
# 高校生が京都について考える

私たちが編集しました!

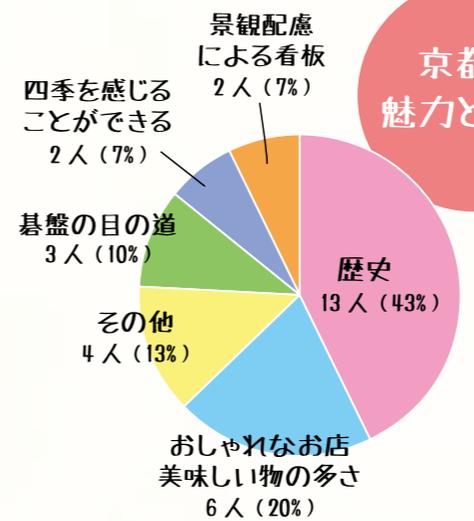


小嶋あかり(16)  
的場美帆(16)

私たちが暮らす、京都。歴史があり、世界中から人気のある観光都市です。しかし、一方で魅力が下がりつつあるとも言われています。今回は、そんな京都について、高校生2人で話し合うとともに、京都の魅力と課題について高校生30人にアンケートをとってみました。



## 京都の魅力とは?



高校生の回答は「歴史」が43%と多数でした。歴史的建造物がたくさんあることや、古い町並みが残っていることは京都特有の魅力といえるでしょう。アンケートに協力してくれたKさんからは、最近、京都の重要文化財に指定されている町家、「杉本家」を訪れ、

江戸時代から続く町家が今現在もその姿のまま残っていることに改めて感動した、という意見があげられました。また、景観に配慮した看板は景観条例が厳しい京都市ならではの、京都市で見られないという珍しさから、魅力の一つとしてあげられました。

**あかり**…京都の魅力が下がってきてるといわれているけど、その原因は何にあるのかな?

**みほ**…私は、普段通学にバスを使っているんやけど、バスは、結構いつも混んでる!

**あかり**…そやな。それは確かにあると思う。

**あかり**…確かに! いつも、バス停は人がいっぱいやな。

**あかり**…どうなんやろ? でも、結構歩いて行ける範囲に、有名な観光地があつたりするよな。

**みほ**…たぶん、ほとんどの観光客は、バスを使っているんやと思うねけど、車とかで京都を回ると道が混むやん? 秋とか特に。だから、車とかで京都に来る人が増えることによってバスが遅れて、ダイヤ通りこうへんくなって、それが混雑の原因にもなってるかもし

**あかり**…そうやな。それも、人が多すぎて、市民の通勤・通学とかが不便になるのは困るよな。

**あかり**…そうやな。京都市が行ってる対策として、「歩くまち・京都」をスローガンに、マイカーを抑制して公共交通機関を推奨する、っていうのもあるみたい。

**あかり**…どうなんやろ? でも、結構歩いて行ける範囲に、有名な観光地があつたりするよな。

**あかり**…そうやな。京都市が増えているってほしい。デザインが京都らしいと、風情もあるし、わかりやすいし。すごい良いよね。

**あかり**…でも、それがわからなくて、バスを使ったりしてる観光客もいるのかも。

**あかり**…そうやね。いくら観光都市やからといって、そこで暮らしている市民の生活が不便になるのは、違うと思うし。

**あかり**…確かに。だから、そういう案内の看板がもっとたくさんあってもいいかも。江戸時代の立札みたいにするとか、風情もあつてよさそう!

**あかり**…あと、京都には「洛バス」っていうのがあやん? あれは、外国人観光客向けにわかりやすい京都らしいデザインで作られていて、「洛バス」に乗れば、京都の有名な観光地を観光できるらしい!

**あかり**…歩くことよって、より京都の雰囲気味わえるし、

**あかり**…歩くことよって、より京都の雰囲気味わえるし、

**あかり**…確かに! わかりやすい。

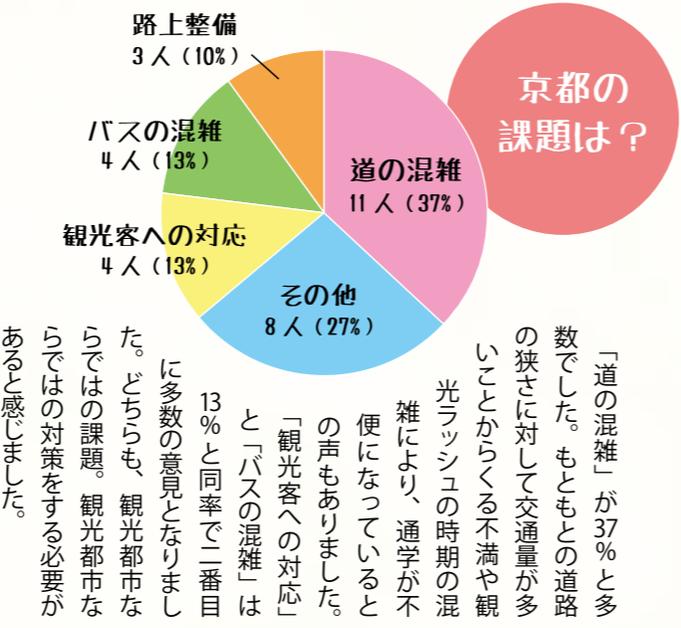
**あかり**…歩くことよって、より京都の雰囲気味わえるし、

**あかり**…確かに! わかりやすい。

**あかり**…歩くことよって、より京都の雰囲気味わえるし、

**あかり**…確かに! わかりやすい。

**あかり**…歩くことよって、より京都の雰囲気味わえるし、



## まとめ

アンケートを実施して、京都は多くの魅力があること、そして観光都市ならではの課題も多くあることを改めて実感しました。

そこで、私たちは、歩くこと、観光客へのわかりやすい案内、観光客向けのバスの増加などの対策が必要だと感じました。

歴史がある都市ならではの魅力が多くある京都。その魅力を多くの人々に知ってもらうため、対策を取りつつ、多くの観光客に愛される都市、また、市民も観光客も気持ちよく過ごせる都市になつてほしいと感じました。

# オープンな場での関わりの可能性

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長 水野篤夫

## 1. ユニバーサルなサービスからターゲット型への流れ

太平洋戦争後の混乱から再スタートした日本の青少年施策は、非行対策から始まりました。混乱の中で、子どもに十分に気を配る余裕がなく、困窮と結びついた少年犯罪が多発していたからです。家出・売春・薬物中毒・暴力犯罪などがこの頃の大きなテーマでした。それが収まってきたのは60年代になってからです。非行対策に替わってスローガンとなったのが、「すべての青少年」の「健全育成」という言葉でした。非行少年（少女）の問題だけでなく、社会の担い手となる青少年を「健全に」育てる活動が必要だということ、子ども会やスポーツ活動、野外活動などが、民間団体と連携しながら幅広く取り組まれるようになりました。ヨーロッパではユニバーサルワークと言われる取り組みです。

ところが、90年代の後半に到ると、若者の問題は違やかたちで取

り上げられるようになってきました。一つが「引きこもり」の問題。

そしてそれとも関連づけられながら社会課題化されたのが、フリーター問題や「ニート」問題という、雇用と関わる問題です。このことは、行政課題としても大きく取り上げられるようになり、多くの予算が対策に注がれるようになります。一方で、「青少年健全育成」の営みはあまり重視されなくなり、さまざまな育成団体の活動も低迷していくようになります。お金と社会的課題の意識という両面で、こうしたオープンで「誰でも」参加できる活動や場から、特定の課題の軽減を目標にした取り組みへと主流が変わってきたのですが、その背景には「健全育成」といって、元々「健全な」子どもしか参加していないんじゃないか、「困難を抱えた思春期以降の若者の課題に対応した取り組みがされていないじゃないか」という、健全育成施策への批判や不満がありました。そして、その批判は当

たっていたのだと思われれます。また、行政の事業において企業的なマネージメントの考え方が導入され、費用対効果や目標設定、成果の数値化といった考え方が強調されてきたことも、「誰がいつ来てもいい」という施設や事業の縮小を後押ししました。問題に直接対応する「支援的」な取り組みと比較して、その成果や価値を説明するのが難しいからです。しかし、若者なら誰でも、来たいときに来られるオープンな場は、課題対応の取り組みより価値が低いのでしょうか？

## 2. オープンな場と「支援される」「相談する」ために行く場

就労支援、長く引きこもる若者の相談や、発達障害や精神障害のある若者のケース、家族背景に問題がある若者への支援など、福祉や心理、精神保健などの専門スタッフを配置した支援専門窓口が必要です。それはそれで大事な取



がそこにあるのです。そうした考え方を共有して若者と関わる仲間皆さんもなっていたら、それだけでいいかなと思います。

※1 アウトリーチというかたちで、若者が居る場に出かけていく支援もあるが、支援を求められなければ始まらないという点では同じ制約がある。

※2 大津市いじめ調査（2016年9月）では、25割から3割の小中学生が「いじめに遭っても誰にも相談しない」と回答している。また、京都市青少年意識調査（2010年4月）では、悩み事や心配事があるときに誰にも相談しないという回答が11%となっているが、男性に限れば16%となっている。

課題を持つ人に専門スタッフが支援するのですが、面談を何度もする中で、青少年活動センターが実施している、同世代の若者と過ごす場になくケースがあります。



ユースサービス協会が運営する、京都市青少年活動センターでの相談はユニークだと言われます。それは、多くの相談が日常的な若者との会話の中から始まるからです。カフェのカウンターでの会話がいきなり恋愛相談になっていたり、窓口での声かけから会社でのいじめの話が始まったりと、楽しそうに、元氣そうに見える若者たちの日々にある、多くのとまどいや悩みが吐露されるのです。そして、どこでもそれが語られるわけではないということが重要なことです。青少年対象の意識調査でも「困ったときに誰に相談しますか？」という問いに「誰にも相談しない」と答える若者が多数いる（※2）ことにも表れているのですが、信頼に足ると思える相手にしか、若者は悩みを話すことはありません。オープンな場だからこそ、相談があるから行く所ではないからこそ、普通の「若者が」あの人だったら話してみたいな」と思える他者「そこにいる同世代の仲間やユースワーカーという大人に出会って話してみようかな」と考えるのです。

また、ユースサービス協会の仕事の中で、相談が始まって個別的なサポートをする事業部門があります。そこでは、就労や対人関係の持ち方、家族との関係改善など、

例えば、近況を紹介し合ったり、ゲームをしたり、おやつを作ったりといった活動をゆるやかにする中で、「遊び直し」、「友達づきあい直し」をしていくような居場所づくりの事業です。その中で、ある若者はみんなで作るゲームを用意してきたり、お菓子作りのレシピを調べてくるメンバーがいたり、グループの中で役割を果たしていきます。個別相談は続け

## 3. まとめ

どうでしょう、オープンな場も意外な「力」と価値を持っていると思いませんか。もちろん、誰でも行ける場であればどこでも良いというわけではありません。特に経験の機会から排除されがちな若者への配慮がなければなりません。オープンな施設の中でセミクローズドな集まりを機能させるような工夫も必要ですし、地域で厄介者とされがちな中高生、人付き合いが苦手な若者、障害のある若者なども受け入れられる場の設定が必要です。その際に欠かせないのは、そうした場を「開いておく」力量と考え方をを持ったスタッフです。ユースワークの方法はまさにそうした関わり方が原点です。特定の課題支援は分かりやすいかもしれないけれど、それだけでは迫り得ない若者の成長への促しの力

### 告知

子ども・若者と関わる力量形成につながる「ユースワーカー養成講習会」開催

#### ■ 日程

2017年  
3月11日（土）～12日（日）

#### ■ 問い合わせ・会場

京都市中京  
青少年活動センター

#### ■ TEL

075-231-0640

#### ■ 対象

青少年と関わる  
現場に携わる方

#### ■ 受講料

8千円（学生・院生3千円）

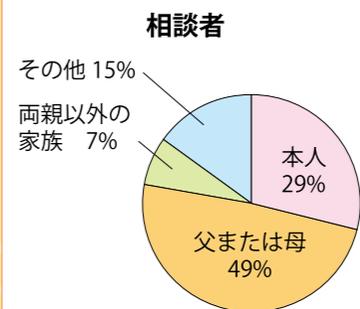
京都市ユースサービス協会が「子ども若者支援事業」に取り組み始めてから、6年が経ちました。相談窓口には、この5年間で約2000件もの相談が寄せられています。その内3割を占めるのが「ひきこもり」の相談です（※）。日々「現状から一歩踏み出した若者」や「家庭内では解決が難しく、疲弊された保護者の方」など様々な方が相談に来られています。

きこもる若者 みまもる家族「コミュニケーションの視点から」と題して、講演会と交流会を実施しました。当日は、京都市内外から本人やその家族、支援者や関心のある方など、第一部、2部合わせて定員を超える約190名が来場されました。

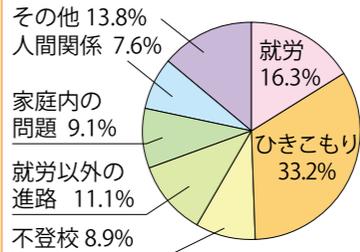
つながる機会にもなっています。このように、子ども・若者支援室では、相談を受けるだけではなく、

他機関と連携したり、他機関同士をつなげるなど多面的な方法を用いて支援を行っています。

※子ども若者総合相談窓口の相談割合



相談内容



### 第1部 講演会

講師：長谷川俊雄氏  
白梅学園大学 子ども学部子ども学科教授  
社会福祉士、精神保健福祉士

「病気で入院している人に、外に出なさいと言うのでしょうか。ゆっくり休んで良くなって、元気になったら出てきてねと言うのではないのでしょうか」  
講演の中で長谷川先生は、常にひきこもる若者を思いやりながら話されました。1981年から

ソーシャルワーカーとして始められた現場実践の経験から、ひきこもりを「社会に出ることに慎重な態度から生まれる苦悩を表現している若者」と「自死を選択しないで生き延びることを選択した若者」と表現されました。そして、先生はいつも彼らに対して、冒頭の言葉の通り、病気の方にそうするようにまず辛い、生きることを選択したことを褒めるそうです。  
昨年9月、文部科学省の通知の中に、「（不登校は）どの児童生徒

にも起こり得る」と初めて明文化されました。同様にひきこもりも特別な若者ではなく、誰にでも起こり得る社会の課題でもあります。一度ひきこもった若者が、もう一度社会に出るには、まず家庭の中で安心してひきこもることが必要です。そのため、保護者の方には相談機関に対して「解決方法を求める」のではなく、「一緒に子どものことを考える場」「想いを吐き出す場」として活用してほしいと話されました。



### 第2部 交流会

ひきこもりをはじめ、生きづらさを感じる若者が外に出る機会として、様々な団体が活動をされています。講演会の後は、そのような団体に相談できるブースが用意され、こちらも盛況でした。今回はその中から3団体を紹介いたします。

#### エイドネット Cafe

居場所・学習支援・相談

オンライン家庭教師を運営する会社による、若者のための居場所です。京都市営地下鉄烏丸御池駅から徒歩2分とアクセスが良く、月2回の相談日や年4回程度の食事会、講演会など、初めての方も参加しやすいことも特徴。Cafeは、毎月5日と15日とイベント時に場所を開放されていて、お菓子を食べたりゆっくりお話しをしたり、学び直しや交流の機会のお手伝いをされています。ご家族の相談もできます。



#### 勇気の出るライブ 実行委員会

集団活動（音楽）

生きづらさを感じている方の自己表現の場を、ライブというかたちで作られています。代表の田中暁氏は、周囲の視線が怖くて電車に乗れませんでした。音楽活動をきっかけに克服した経験を話されています。このことをもとに、「前に出てみて気づくこともある、まずは一度イベントに来てほしい」と話されます。実際イベントでは、即興で歌ったり、落語をしたりと自由な雰囲気。もちろん、問い合わせから来られるまで1、2年かかることもあり、参加は大きな一歩ですが、リピーターが多いのも特徴です。このほかギター教室もされているなど、利用者同士のつながりもできるとのこと。

#### ワークパートナーYUI

居場所・集団活動・就労体験

就労移行支援A型事業所による、就労体験ができる場所です。今年度は延べ80名近く利用され、この体験をきっかけに就労移行支援を始められた方もいます。半日体験や近くの駅への送迎など、個別のフォローにも対応されています。もともと障害は個性という理念で、就労移行支援が行われており、そのノウハウが就労体験にも活かされています。就労体験は、18〜39歳のひきこもり経験や働くことへの自信がもてない方が対象。「できなかったことが少しずつできるようになり、できることを仕事とマッチングさせる。変わったことはしていない。普通に接しているだけ」とスタッフの方が話されるように、新しい体験や違った環境に慣れるきっかけづくりをされています。



食事は、お好み焼きやクリスマスパーティーなど楽しいイベントを企画されています。

# ユースから版

## やませい「あえる、フェスタ 11/6 (日) ステージ企画『フリースタイルダンスバトル 2on2』を実施しました!



地域の関係機関・団体が一堂に開催する『ぐるっと ふれ愛 まちフェスタ in 山科』の一環として、山科青少年活動センター全館をつかった年に一度のお祭「やませい「あえる、フェスタ」を実施しています。今回のステージ企画の主催運営をした IMANEY & MinMinKaMaKiri さんから、当日の感想をいただきました。

「当日は 31 チームが出場し、多くの青少年に加え、おじいちゃんおばあちゃんや子どもたち、障がいのある方など、普段ダンスバトルを観る機会のない方が大勢来ていただきました。

バトルは、キッズダンサーたちや保護者会の方の参加もあり、ダイナミックなパワームーブ、大人 vs 子どもの準決勝などでかなり盛り上がり、つられて踊りだす小さい子どもや手拍子をしながらいていたおばあちゃんなど、すごく良い表情だったことが印象的で、とてもあたたかみのあるイベントでした。イベント中の 3 時間半は、あっという間に過ぎ、大盛況で終了することができました。

中学生の時からダンスの練習で利用していた『やませい』のお祭りでダンスバトルを開催するという、本当に良い経験をする事ができました。観戦に来てくださった皆さま、ありがとうございました。」

## 「よりたくさんの人に来てもらい、笑ってほしい」京都発のお笑いライブ! 東山で毎月公演



京都を中心に活動している芸歴 4 年目以下の学生芸人によるお笑いライブ「雅ライブ」。2015 年 9 月から東山青少年活動センターで毎月公演を行っています。生のお笑いライブの良さを京都の人に少しでも広めていくことを目指しています。2017 年の 3 月に主要メンバーが卒業し活動を終了するため、3 回のライブを残すのみとなりました。お時間のある方は是非お越しください。

日時: 1 月 29 日 (日) 15:00 ~、2 月 26 日 (日) 15:00 ~、  
3 月 26 日 (日) 14:00 ~ (観覧無料)  
場所: 東山青少年活動センター 創造活動室

## 「ユースシンポジウム 2016」

12 月 10 日 (土)、年に一度のユースシンポジウムが中京青少年活動センターで開催されました。『ミッケ! 語る DAY ~カタルにつながる。ワタシが見つかる。~』と題して、語る場をつくりました。7 月 31 日 (日) に立ち上がった実行委員会のメンバーと会全体をマネジメントするコアスタッフのメンバーが、全プログラムの構成や協力者の依頼などを行い、イベントを実現させました! 参加者・協力者併せて 161 名が集結、自分自身の思いを語ったり、他の人の思いを聴く時間となりました。



## 「BRASH × BRUSH」世界大会出場!

下京青少年活動センターで熱心に練習を重ねてきた小・中学生のダブルダッチグループ「BRASH × BRUSH (ブラッシュブラッシュ)」が、世界大会 2 位に輝きました。12 月に NEWYORK APOLLOTHEATER で行われた世界大会「NATIONAL DOUBLE DUTCH LEAGUE HOLIDAY CLASSIC 2016」novice 部門に日本代表として出場。帰国したメンバーたちは、「世界を目指していたので 2 位で呼ばれた時は、悔しかったです。けれども良い経験になったし新しい目標もできたので良かったな~と思いました。新しい目標は、advance 部門で日本一をとって世界大会にまた挑戦することです」と語っていました。



## 世界エイズデー PR イベント



12 月 1 日は世界エイズデーです。それにちなんで、若者がエイズや性についての正しい情報を少しでも知るきっかけになることを願い、11 月 23 日 (水) イオンモール KYOTO にて世界エイズデーの啓発イベントが行われ、ユースワーカー 4 人が参加しました。

当日は、エイズや性に関するパネル展示やクイズコーナー、啓発グッズの配布のほか、今年度は新たに理容専門学校生徒によるレッドリボンネイルアート、お花を入れるポットへのメッセージ記入など楽しい企画も加わり、親子や若い女性を中心にたくさんの方にお立ち寄りいただきました。また、京都府の PR キャラクター「まゆまる」も登場し、会場を盛り上げてくれました。

## 南区民ふれあいカフェ「みなみなみなみ」

京都市南区のまちづくりに関心のある人々が、集い、語り合う時間、南区民ふれあいカフェが 12 月 12 日 (月) に南青少年活動センターで開かれました。40 名近くの参加者は、大学生、会社員、地域住民、NPO スタッフなど幅広く、「南区」のまちづくりへの思いを語り合いました。また、高校生・大学生ボランティアスタッフによる手作りスイーツと飲み物を販売するロビー喫茶もオープンしました。京都府立鳥羽高校放送部の生徒のみなさんによるドキュメンタリーの撮影もあり、さまざまな世代が出会い、つながる場になりました。



## 学習支援事業に関わるボランティアスタッフ研修会

12 月 4 日 (日)、様々な事情で学習環境の整いにくい中学生を対象とする学習支援事業に、ボランティアスタッフとして活動参加している青少年が 41 名集まり、「学習支援・補助」をテーマに講演会とグループセッションを通して学びを深めました。

講演会では、フリースクールほっとハウスの鷹羽良男さんと大辻咲子さんを講師としてお招きし、一人ひとりに合わせた学習指導をつくる姿勢や考え方についてお話を伺いました。グループセッションでは、教科ごとに分かれて日々の実践を振り返りながらケース検討会を行い、お互いの工夫点をシェアしました。



## ご寄付いただきました

京都市ユースサービス協会では多くのご支援・ご寄付をいただいております。2016 年末までに個人寄付いただいた皆様についてご紹介させていただきます。

松井憲昭 様/竹岡つかさ 様/村田英彰 様/河原田友恵 様/梅野太平 様/芝真彦 様/和田寛治 様/江田薫・努 様/夢のスタートライン チチワシネマスタジオライブ参加者、来場者 様/ LIVEKIDS 25 回記念大会 参加者、来場者 様/演劇ビギナーズユニット 来場者 様/東山アートスペース 参加者 様/からだではなそう 参加者 様/中 3 学習会 STEP 文教 BBS ボランティア OB 一同 様 (順不同)

合計 556,204 円の寄付をいただいております。(2016 年 12 月末 現在)

いただいたご寄付については、当協会の取り組み、ご指定いただきました事業に活用させていただきます。誠にありがとうございました。

発行 公益財団法人 京都市ユースサービス協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262 京都市中京青少年活動センター内

tel: 075-213-3681 fax: 075-231-1231 E-mail: office@ys-kyoto.org

HP: <http://www.ys-kyoto.org>

印刷: 株式会社谷印刷所 デザイン: 自然堂株式会社

